



馬耳東風

世はまさに携帯電話時代だ。ここ数年間の進化は、実に目覚ましい。パソコンと並ぶもうひとつの流れとしてデビューし、一説に世界の半数近くの人々が利用しているという。マサイ族も狩をしながら使っていると聞く。生活に密着しながら最先端の進化を続け、社会の主役に躍り出た。現代社会に融合し、場所や時間を問わないユビキタス化の進行に拍車をかけた。あっという間に固定電話の代替となり、いまや新聞やテレビの脅威になりつつあるともいう。メールの端末化が進むとともに、カメラ機能の取り込みは早かった。つい最近、サイバーによる高等教育機関の誕生も話題になった。各社の技術改革や顧客獲得競争も当然ながら激しいし、その進化はまさに加速度的だ。21世紀は情報が力と価値を持つ時代だという。そのことは誰も疑わない。現代人は日夜進化を続けるさまざまなメディアを使いこなしてゆかなければならない。単純なメッセージひとつ発信するにしても、いろいろな表現方法が存在する。高度な情報社会は、多種多様なコミュニケーション・スタイルの可能性を分析しながら、溢れる情報を的確に読み解き、かつ発信する能力を高めることが求められるメディア・リテラシーの時代である。電気通信は、古くはペリー来航時の電信機に始まり、日本海海戦における「本日天気晴朗ナレドモ浪高シ」の連合艦隊が大本営に向けた打電、あるいは関東大震災の情報は東京湾停泊船から無線で世界へ発信され

たという。無線電信の技術は、モールス信号からラジオやテレビへ、ポケベルから携帯電話へと進化した。電話機だから当然ながら一般通話使用が多いが、便利な伝言メモや留守番電話サービス、テレビ電話機能もついている。メール機能になると指先の器用運動といわれるEメールは絵文字や写メールの使用へと発展する。モバイル・インターネット機能や着メロ、音楽再生、ワンセグ、ラジオ等のメディア系機能ももちろん多く使われるが、最近のツール系機能の使用が画期的である。カメラ、電卓、アラーム／タイマー、アドレス、カレンダー／スケジュール、メモと豊富だ。さらに、位置ナビからおサイフケータイ、リモコン、マルチタスク、リモートロック等のメニューがある。溢れるような携帯電話機市場は、パソコン機能との比較が生まれ、益々多機能化し逆にシンプル化への要望も出始めてきたようだ。携帯電話は、その通信機能を母体に生活に密着したミラクルな必需品となった。

俗称ケータイは個人情報に深くかかわり、もしもの機能麻痺を考えると不安は大きい。多くの若者に日常化した長電話は、専門家によると距離を越えた心理的な擬似環境で自己確認をするのだという。また、外部メモリーへ知的秘書の役割を持たせる記憶の外部化による知のあり方が新たな時代課題となり、さらに顔の見えないネットの制度的な規制対策が浮上した。今こそ進化するケータイ文化の好ましい社会的成長をと祈りたい。

(柏)